

2002.1.1

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 27
(NPO 法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////
今年も近畿水の塾・澤井河川塾をよろしくお願ひします!
////////////////////////////////////

【河川塾NEWS】

新年明けましておめでとうございます。

昨年は土谷さんの渡独、NPO 法人 近畿水の塾の誕生など、BIG な NEWS がたくさん
ありました。お世話になりました皆さま方にはあらためてお礼申し上げます。

さて、今年の「近畿水の塾」3大 NEWS 予想は!?

3位は・・・『第3回世界水フォーラム開催』

近畿水の塾も「水に関するワークショップ in 大阪」パネル展示で参加します。

2位は・・・『近畿水の塾 設立記念会開催』

来る2月11日(祝)13:00~大阪府立青少年会館にて「柳川掘割物語」の映画上映
会&交流会を行います。皆さま、ふるってご参加ください!!

1位は・・・『 』

さあ、今年は一切どんな楽しいことができるでしょうか?

第一位の『 』に入る楽しいことは、やはり年の瀬までのお楽しみ(?)ですね。

今年も、近畿水の塾と澤井河川塾をどうぞよろしくお願ひします!

本年が「川と水」にとって、良い年となりますように。



京都・大阪・滋賀で第3回世界水フォーラム開催



淀川・木津川水系の上流部 名張川

【前回河川塾の内容】

「第24回澤井河川塾」

日時：12月18日(水) 19:00～

場所：センター（いつもの6F会議室）

出席：池田、田淵、平野、山本、笠原、市川、澤井、白木茂、白木江、西河、寺川、水谷、
福廣、橋本、南、安田、勝山、足立、小川、富田、佐藤拓、佐藤侑（計22名）

内容： 特別シリーズ 流域間交流会

「石川・近木川 ミニワークショップ」

- 寺川さん・白木さん

石川 ～川における市民と行政の協働とは～

経緯 1994年 石川あすかプランを考える市民連絡会発足

1998年 石川河川公園自然ゾーン討論会

1999年 上基・管理運営計画に基づくワークショップ

PR イベント1回、ワークショップ4回

2000年 ワークショップの継続（地元町会との座談会）



市町会と事前の意識交換が出来ておらず自分たちの各々の不満のみが出るだけであった。

2001年 ワークショップの継続（A地区整備プラン検討会）

2002年 ワークショップの継続（石川流域フォーラム・座学や現地講座）

（2000年～2002年は自然の復元実験なども手がける）

自然復元実験

石川河川公園自然ゾーンの生き物調査・植物・鳥・昆虫

ミゾコウジュ（薄紫の花が咲く2年草）の育成管理

大阪南での確認は石川のみ（石川でも1箇所だけ）

人工的にかく乱させて種まきをする（成功）

竹林の管理実験

タケノコ採りと間伐による密度管理（学校の生徒も参加）

自然ゾーン整備プラン

A. 水路の復元

川の周りが乾燥しすぎることから提案

旧河道を参考にした（昔、石川と平行に流れる川があった）

復流水の動きがあるのかを実験

その他として平地を凹凸にし水溜りを作ることで湿地化を測る

B. ワンド作り

C. 竹林整備

D. 農業用水路（俗称ミニ石川）

昔の護岸（草木が生い茂る）を生かした小さな子供も遊びやすい空間



石川の洪水敷を流れる水路



河川敷の竹林

自然ゾーン考え方（原点）

身近な自然を作る

基盤となるものを作って待つ

瀬・淵・蛇行・フラッシュによる多様な地形

じっくりと作る

10年後をメドに

地域住民と作る

安く手軽に

整備を必要最低限にとどめる

情報を共有

行政にもっとオープンに（又、公園課内部でも情報の行き届きを）

今までのフォーラムの主旨

石川アピール

市民と行政の協働の成果を提示

今後の課題を提示

市民としての取り組みの宣言

協働する行政への提案と要望

- ・ 市民参加の公園↓作りの視点から語る
- ・ 川の自然環境の保全・創出の視点から語る

交流・出会い

やる気・意識確認

問題提示

予算・外部からの支援体制・行政プランのなさ・

職員の意識のギャップ・ボランティア問題（どこまで任せるのか？）・

団体間、個人間もしくは団体対個人間のコミュニケーション法 etc

共生型技術とは

未完形（施工完了が完成ではない）

生態系創造の始まり

地域型

地域の自然の中で

地域固体が

地域の技術で

地域の素材を用いて 行動してゆく

参加型

いっしょに企画、提案することで活動の展開を図る

ローリング

施工後に調査を行い1結果を次の計画の参考にする

切れ目のない総合技術を作ってゆく

白木さん流大事なこと

自然を創造する

既存技術体系に代わる技術

金より時間をかける

時間は「夢」を裏切らない
夢は時間を裏切ってはならない

ここからは話し合いの内容ごったまぜ

「市民活動としてなぜ行政と協働したいのか？そこに目標なり目的はどう設定しているのか？」

「協働する気は無かったが話をしていくうちに行政よりにしようかとなった。」

「協働することによりあすかプランを成功しようとするのか？」

「あすかプランは行政のものである。地元住民のことであるのに、何故地元で出来ないのか？という事よりあすかプランに物もうす」

「協働の定義とはそもそもどういうものなのか？」

「協働とはもともと行政が提示した言葉であり、その言葉を市民が使うということは今の行政と市民の関係を満足して肯定していると行政に解釈させることになりかねない。」

「行政主導の中に割り込んだという所からその言葉を共有し始めた。」

「昔は要求さえすれば意見は通っていたものですから。」

「反対意見を出しているうちに行政から歩み寄りがあったことがすべての始まりなんです。」

「協働によりあすかプランを良いと思う方向に直すのが今のもくてきなんでしょうか？」

「いえ、市民自治の自覚・復活が根底にありその土台というか足がかりがあすかプランでありそれが協働の先に目指すものです。」

「市民が自分で考える。もっとお互いの責任・役割分担を明らかにし協働からパートナーシップに名を変えたらどうか。」

「協働とパートナーシップに意味の違いがあるのですか？」

「協働は行政が提案したものであり行政が主導と考えた上にたったものであるような気がするので、意識改革を含めて。」

「協働であっても馴れ合いにはならずお互いに意識をしっかり持ってシャープに。」

「計画段階から参加しているのは大きな進歩と満足しているが、予算・行政側の問題にも足を突っ込んでしまって意見が言えなくなってきた所があるかもねません。」

「ともに進めていく上で市民と行政がお互いどういう立場で臨むかはっきりしないのでその仲介役が要りそこに石川ワークショップが入っている。」

「行政は治水だけすれば他の事はほっといて市民に任せてほしい。ただ、治水の方法もいろいろと考えて進めてほしい。」

「公園プランのやりすぎから反発。それが発足ですが本来市民と行政は対立するものではないと思いますし、問題は行政の一人走りだけでなく市民意識にもある。」

「行政としての行政の役割とは何なんでしょう？」

「市民任せにしてしまうと広域に渡る公共の土地はすみわけが出来ず、好き勝手言いつ放しになってしまう。」

「市民が自分たちでワークショップなりして話し合って何かを作るほど成長していない。」

「本来の事業は施工後なんですけどね。」

「基本の事業時に市民も参加させないから後からワークショップを開く羽目になる。」

「市民の意見もなかなか一致しないので大変です。誰がまとめるのか。」

「コンサルの関わり方はどういうものがよいのか？」

「計画案の提示位でしょうか。」

「ただワークショップの法に時間が無い。」

「石川でのコンサルの役割は？」

「設計をしている。同じ場で話をしており、前回の物を参考に」

「コンサルの意義はどこに在るのか？今は役所の肩代わりのものになっている。本来はコンサルが入らないほうがよい。」

「時間が無い中でコンサルはやっている。行政は来年度より予算をあげないと駄目なのであせっている。」

「・早く決めるという事は行政にのっている。

- ・川は残地
- ・川にテニスコート等は認識に違いある
- ・折り合い
- ・プロフェッショナルとしての認識あまい
- ・近木川での問題は西川、白木を派遣し、コンサルが必要ではないか？
- ・エリアフリーが必要ではないか？
- ・住民のレベル低い。
- ・フレンドシップ社会
- ・時間の概念を変える
- ・行政は公僕」

「石川の河川公園自体がほんとうにいるのか？住民は必要としているのか？」

「そもそも公園だから話がこじれる。公園でなかったほうが自然として川として良かった。公園にしなればどうか？」

「公園が駄目という事ではなく、都市公園を川に作るのが間違い、放って置けば誰もが入れる緑豊かな公共施設だった。」

「整備された公園のほうがいいという市民もいるが、市民も根元では深く考えていない人のほうが多い。整備 = キレイ こっちの方がイイという安易な考えだ。」

「良い川とは、どんな生物がいるとかいう情報をもっと市民にオープンにしなれば市民

の認識も変わらない。」

「石川は荒れ川ではないが洪水があって 1/70 確率にした」

「里山保全是コンセンサスが得られている。川についてもコンセンサスが必要」

「河川改修計画の元は治水のためのみであり、作った平地は河川課ではもてあますといった傾向にありますね。川はこう在るべきだと住民の方にもっと認識してもらい取り組みが必要。」

「どこでもそうだと思うのですが、行政での対応窓口は良くないですね。公園事務所(現場事務所)に任せずトップダウンの方が話は早い。窓口をすっ飛ばして上と話をする方が良い。石川公園で無く本川まで含めて考えていったほうが良いのでは。確かにこれからの話は自然ゾーンで留めていたらダメ。」

「まずは、フォーラムで間口を広げ事務所内でのトップダウンをする方向で行きたい。」

「河川公園は失敗。」

「行政内ではオフレコになっている。そこら辺りも失敗は失敗としてオープンになる土壌を作ってゆきたい。」

「コソコソ話では駄目！市民側で出来ること・・・」

「今までのシステムでは、飛び越えるのは駄目！行政に勇気を持って欲しい。自分たちで分からなければ上で考えるべき」

「共生型では謙虚さが失われている。役所は人が代わるのでプロセスが大事！住民が納得するかになる」

「行政は説明不足」

「行政内での下から上へのスムーズな意見の流れが必要。計画の個々の細部へ至るまでの必要性の説明を作るという体系を作るべきである。そしてそれを行政の上から下までがしっかり知っておくべきだ。」

「市民は広域にももの考える必要は無いが、行政は広域を公平に考えなくてはならないから結構大変。住民と市民の違いですが、住民とはそこに住んでいる人で意識の高い人もいれば低い人もいます。市民はその地域に興味のある人のことで大体意識の高い人が多い。しかし、意識は高いが意見が偏りがちで意見は決定ではなく参考程度のほうが良い。行政は深く狭く出来ないし、学識者は1部の話しか出来ない。誰がどう調整するか。同じ所に2度予算は下りないので予算がつけば行政は急ぐし、失敗しても壊れない限りなおせない。どれだけ不確かでも、予測なしでは動けない。始めを変えても行き着く先は同じ。という考えもあるが始めを変えたら行き着く先は違うという考えもある。ポスト的に伸び盛りの学者は独創性を求められる。失敗も認められる世界でもあるし。対立があるからこそ、話し合いがあり、発展が在るという点もある。変われる感覚を大事に。」

「早く成長を求めるのは駄目」

「組織はマモノ」

「様々な行政マンが居てる。1つの考え方にするのは良くないが、良い風に考え方、取り
組み方を買えて欲しい」
「主人公の川にしてみれば小さいこと！」
「自然が極端に変わらない限りいつまでも待つ。心が大事」
「でも、チャンスは逃すな！」

FIN

[摂南大学澤井ゼミ 小川芳也 & 富田忠明]

【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

第25回「澤井河川塾」

日時：1月13日(祝) 13:00~17:00
・・・新年早々、フィールドワークです！！

集合：近鉄長野線「喜志」駅改札前 12:30 (徒歩にて現地に向かいます)

内容：河川塾フィールドワーク
「大阪府 石川」 - 案内役 勝山さん

参加申込：勝山 (E-mail: k-katsuyama@venus.sannet.ne.jp) まで
1/11(土)締切

||| 石川リバーウォッチング&ミニワークショップ開催 |||

? スケジュール

12:30 近鉄長野線「喜志」駅改札前集合
13:00 現地見学・・・徒歩にて移動
~ (勝山さんの案内でミニ石川やワンドの護岸など)
15:00 石川流域講座生と合流し意見交換会
~17:00 ... 富田林市民会館 3F 「竹の間」にて
(ミニワークショップの第2弾)

? 河川公園でのワークショップによる『自然ゾーン』の整備計画立案から企画運

営まで、多彩な活動をされている「石川河川公園『自然ゾーン』ワークショップ」の皆さんのフィールド「石川」を『自然ゾーン』を中心に主要なポイントを廻りながら見学します。

「川の自然とは何か」「川と共生する技術はあるのか」「その中で市民は何ができるのか」など、川をめぐる課題についてざっくばらんに話し合いながら、河川敷を散策してみたいと思いますので、関心のある方はどうぞご参加ください。

? H15.1.19 開催予定の「石川流域フォーラム」では、これらの取組みを受けて市民と行政の協働のあり方についての「市民アピール」を宣言します。

(近畿水の塾は、H15.1.19「石川流域フォーラム」を後援します)



石川での竹林間伐イベント



ミゾコウジュ生育地

【川の情報ボックス】

イベント情報

「石川流域フォーラム」

テーマ 川で結ぶ人・自然・暮らし ～石川流域ネットづくりに向けて～

目的 南河内を南北に貫いて流れる石川は、身近な自然にふれられる場として地域の多くの人々に親しまれています。その中流域に位置する石川河川公園自然ゾーンでは、平成11年から市民と行政の協働によるワークショップが設置され、石川の自然を守り育てていくさまざまな活動に取り組んできました。本フォーラムでは、その成果発表を行なうとともに、石川をテーマに総合的な学習を展開している学校の情報交換や、今後取り組むべき市民参加活動についてのアピールを行ないます。また、石川流域で活動する市民や団体、学校、行政の交流の場をつくり、石川流域の人・自然・

暮らしのネットワークづくりを進めることを目的としています。

内 容

10 :00 ~ 13 :00 流域展示会 & 総合学習交流会

*** 石川の自然や活動についてのパネル展示

*** 総合学習の発表展示など

11 :00 総合的な学習の情報交換会

*** 石川をテーマに学習を進めている学校の報告

(富田林市新堂小学校、羽曳野市古市南小学校、西浦東小学校ほか)

13 :00 活動発表 :市民の取り組み、行政の取り組み

「石川における市民活動の経過」 田淵武夫氏 (石川WS実行委員)

「石川ワークショップの成果と課題」 篠沢健太氏 (石川WS実行委員、大阪芸大)

「石川流域講座生の活動計画」 石川流域講座生グループ

「河川行政からの取り組み」 高井裕司氏 (大阪府富田林土木事務所)

「生きものとふれあえる都市公園計画」 繁村誠人氏 (大阪府公園課)

15 :00 パネルトーク及び市民アピール

「市民と行政の協働とは」

繁村氏 & 白木茂氏 (近畿水の塾) & 寺川裕子 (石川WS実行委員)

16 :00 参加者全員で「人間流域図」をつくろう!

17 :00 終 了 (終了後に交流会 ~ 18 :00)

日 時 : 平成 15 年 1 月 19 日 (日) 10 :00 ~ 17 :00

場 所 : 富田林市市民会館 (レインボーホール) 中ホール

交 通 : 近鉄長野線喜志駅より徒歩 7 分

(会場の駐車場が少ないですので、できるだけ電車をご利用ください)

参加費 : 無料 (交流会 1000 円)

主 催 : 石川流域フォーラム実行委員会

後 援 : 大阪府、富田林市 (申請中)、NPO 法人近畿水の塾

参加申込 : 下記連絡先まで、氏名・住所・電話・参加人数をお知らせください。

〒580-0012 松原市立部 1 丁目 6-3 里山環境教育オフィス (NPO 法人里山倶楽部内)

TEL&FAX 072-333-0309 (担当 寺川)

E-mail ZXA07654@nifty.ne.jp

(石川河川公園自然ゾーンワークショップニュースレター『石川 NEWS』より転載)

イベント報告

「木津川流域シンポジウム」

日程：平成 14 年 12 月 8 日（日）13：00~16：50

場所：エル・おおさか

主催：木津川流域リフレッシュ事業推進協議会

第 4 回の「木津川流域シンポジウム」は何と！大阪（エル・おおさか）で開催されました。

これには上・下流連携を目指して木津川（淀川）の最下流 - 大阪に向けて、上流における木津川への取組みや思いを「源流からのメッセージ」として伝えるシンポジウムという意味があったそうです。

当日は京阪神のみならず、三重の名張や伊賀からもバスを連ねての参加者も含めて、150 名を超える方々が集まり、会場は熱気ムンムンでした。

基調講演から事例発表、A・B の二つに分かれてのフォーラムまでのプログラムには、私たち「近畿水の塾」から福廣理事長をはじめ、川上さんや久保田さん、伊井野さんがパネラーやコーディネーターとして登場されました。

まず、基調講演では、国土交通省の宮本さんから「木津川を通じて思われる現代社会のひずみ」についてお話がありました。その中でも『イタセンパラの赤ちゃんが目合い、技術屋としての責任を感じた』という、クールな語り口調からは想像できないようなお話が印象的でした。

次に、事例発表では、山梨県の多摩川源流で「多摩川源流研究所」を主宰されている中村さんから「川の魅力が凝集された源流と流域の交流」に関する先進的な取組みについて紹介がありました。独特の語り口調をもって語られる源流物語はジョークを交えながら、時に瀬となり淵となり、とうとうと流れたかと思うと奥深く沈んでまた浮かび上がり、さながら源流の流れに耳を傾けるか如くの面白さでした。

そして、川上さんから「木津川の源流地域における川の現状や様々な取組み」についての紹介と「木津川源流研究所構想」の発表がありました。

木津川の歴史的な生い立ちから、現在活動中のパートナーシップ型水環境改善事業まで多岐にわたるお話の数々の中から、地域を思い、地域のためにできることを率先して行うことの意義を、源流からのメッセージとして伝えられたと思います。

そしてその集大成とでもいうべき「木津川源流研究所」の設立案は、やはり川の源は森であり、山であるとの結論に行き着いた、一つの答えとも言うべきものなのでしょうか。

最後に、フォーラム A では、「上下流の連携」をテーマに、コーディネーター川上さん、福廣さんと宮本さんをパネラーに意見交換や問題提起がなされました。

福廣さん曰く「都市生活人は、水に関して水道の蛇口から 30 cm 程度の認識しかないのではないかと。『この水はどこから来たの？』や『どこに行くの？』といった概念が喪失して

しまった。生活と『現場』が分断されている。この現状をどう回復させるか？
これは、象徴的に『コウノトリが自然に、我々の生活の隣に住んでいた川を取り戻す』
ことに他ならない。コウノトリを戻すのではなく、その頃の川に戻す。そのためには我々の『暮らし』を戻すことが必要だ。なぜなら川は『暮らし』の舞台だから...」
宮本さん曰く「川の水面が社会を映している。その川がまちと分断されてしまった、水源も分断されてしまった、かく乱などの自然のサイクルからも分断されてしまった...
この100年はある意味、異常な時代であった。これからは生き方の修正をする時だ。
木津川にはそれを可能にするポテンシャルがある」

またフォーラム後の会場との意見交換も活発に行われ、時間もたいへん押していましたが、福廣理事長からのNPO法人近畿水の塾のご紹介もしていただき、参加者同士の交流を深めました。



木津川流域シンポジウムの模様



川は『暮らし』の舞台

(詳細は木津川流域リフレッシュ事業推進協議会ホームページ(URL))

<http://www.pref.mie.jp/GKIKAKU/HP/kidugawa/>)

[侑&拓]

【事務局より】

「澤井河川塾」新世話人の自己紹介コーナーです。
新春第1弾は、この人！！

堺市で河川の仕事をしている、西河です。

1995年に大和川河川塾(堺市)に参加して以来、1996年の全国水環境交流会(枚方市)、2000年の川に学ぶシンポジウム in 近畿(尼崎市・八幡市)などのシンポジウムのスタッフをさせて頂きました。この間、近畿で活動されている様々な人に出会い、目の

鱗(うろこ)を奪り取られ、今に至っています。

河川の仕事始めて10年になりますが、この10年というものは結果的に見て非常に「川」が動いた時期でもあり、「川」に関われたことを幸せに思っております。現在は特に水環境に関わる仕事をしていますが、ひとえに水環境といっても地域性、スピード感、市民の関わり、また人によっては十人十色のところがあり、悩ましいところも否定できません。仕事では果たせない夢の実現や情熱の糧として水の塾に参加している様なものですが、精一杯将来に向かって「川」や「水辺」への、また「人」への関わりを絶やさず、自分が出来ることを、出来るところで、出来る人たちとやって行きたいと思っております。よろしく願いいたします。

西河さんには河川塾の企画運営及び渉外担当をお願いしています。

また、NPO 法人近畿水の塾の監事でもある西河さんは、いつも笑顔の優しいお兄さん(おじさん?)でもあり、凄腕ジャズマンであったりもします。

いつも何かと事務局を助けていただいて、ほんとうにありがとうございます！

これからもどうぞよろしくお願い致します！！